

カマグのアスファルト・コンクリートに対する影響について

アスファルト・コンクリート・テストピース（供試体）を一定期間試験液に浸漬し、その後、マーシャル安定度試験により各々の強度を調べた。

【方法】

1. マーシャル安定度試験用供試体の作製
 - ①密粒度アスコン（13）（マーシャル試験に対する基準値；アスファルト舗装要綱による）の処方に従って、φ10cm、厚さ60cmの円柱型の供試体を作製した。
 - ②混合温度は155℃、締め固め温度は145℃で行った。
 - ③上記供試体作製後、マーシャル試験方に従って、浸漬前の重量及び厚さを予め測定した。
2. 浸漬試験液はカマグ、水道水、塩化カルシウム水溶液の3種類とした。カマグ、塩化カルシウム水溶液の濃度はいずれも30%とし、3種類の溶液に供試体3個を各々35日間浸漬した。
3. 浸漬終了後、各供試体外側の水分を拭き取り、マーシャル安定度試験を行った。
4. 試験機関
日本油脂(株)油化事業部

【結果】

試験溶液	安定度 (kg/f) ※1
水道水	913.4
塩化カルシウム	1002.8
カマグ	1028.1
基準値※2	500以上

※1：供試体が破壊されるまでに示す最大荷重

※2：アスファルト舗装要綱によるマーシャル試験に対する基準値

【考察】

35日間の試験液への浸漬では、アスファルト・コンクリートに対するカマグの影響は無かった。